

リュウキュウマユミを下甕島に記録する

田金秀一郎¹・山崎海都²¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-35 鹿児島大学理学部

はじめに

リュウキュウマユミ (*Euonymus lutchuensis* T. Itô) はニシキギ科の樹高 2-4 m の常緑低木で、琉球列島を中心に分布する日本固有種である (初島, 1975)。鹿児島県では島嶼部では沖永良部島、徳之島、トカラ列島中之島、黒島、屋久島にて標本が採取され、その標本は鹿児島大学総合研究博物館植物標本室 (KAG) や鹿児島県立博物館 (KAP) に多数収蔵されている。奄美大島にも分布記録はあるが (琉球の植物研究グループ, 2018 onward), 著者ら自身は自生状況や証拠標本はまだ確認していない。九州本土における分布については、初島 (1975) は「赤生木, 川邊, 伊集院, 東市来, 串木野」, 初島 (2004) は「大浦, 東市来, 冠岳」を挙げているが、標本については 1 点、1936 年 12 月 28 日に内藤喬によって採集された「薩摩 冠岳」の標本 (KAG009673) が確認されるのみで、この冠岳が本種の分布北限となっていた。

著者らは 2020 年 10 月 11-13 日に実施した下甕島の植物相調査で、口岳と青瀬岳に連なる尾根の東側に位置する谷で、リュウキュウマユミの生育を確認し、標本を得た。リュウキュウマユミは常緑であること、若枝が緑色で無毛で 4 稜があること、葉が披心形ないし狭卵形で国内に分布する同属の近縁種と比べて長さ 2-9 cm, 幅 0.7-3 cm と小型であること (立石, 2016) などから、花や果実がなくとも容易に識別できる種である。今回の発見はリュウキュウマユミの分布北限を更新する点と、甕島の植物相が南方系要素を含む証左を示す点で注目に値するため、ここに報告する。

観察記録

リュウキュウマユミ *Euonymus lutchuensis* T. Itô, J. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo 12: 372 (1900). [ニシキギ科] 図 1.

下甕島のリュウキュウマユミは図 2 で示す東向きの谷の斜面、約 50 m × 50 m の面積に約 30 個体からなる 1 集団が確認された。自生地の標高は 325 m で、植生は高木層にイスノキ、アラカシ、アカガシ、タブノキ、低木層にイヌビワ、ミミズバイ、サカキ、ヒサカキ、ショウベンノキなどが生育していた。比較的発達した常緑樹林下はあるが、急峻な崖地に立地していることから木漏れ日がリュウキュウマユミを含む林下まで届く状況にあった。

甕島列島の一部地域は 1981 年に鹿児島県自然公園条例に基づき甕島県立自然公園に指定され、2015 年には自然公園法に基づいて甕島国定公園に指定されたが、今回報告する本種の自生地はこれらの保護区内に位置していない。リュウキュウマユミは鹿児島県レッドデータブック (鹿児島県, 2016) では準絶滅危惧種 (NT) に指定されており、下甕島の産地は種の分布北限である上、1 集団のみしか確認されていないことから、分布特性上重要な種として多少なりとも保全について配慮されることが好ましいだろう。

証拠標本 JAPAN. Kagoshima Pref.: Shimo-koshiki Island, in evergreen forest, 31°40'06.84"N, 129°42'27.14"E, 325 m elev., 11 Oct. 2019, S. Tagane & K. Yamazaki K578 (KAG 151252).

Tagane, S. and K. Yamazaki. 2020. *Euonymus lutchuensis* T. Itô (Celastraceae) found in Shimo-koshikishima Island, Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 47: 155-156.

☑ ST: The Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: stagane29@gmail.com).

Received: 2 November 2020; published online: 4 November 2020; http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_047/047-031.pdf



図1. リュウキュウマユミ *Euonymus lutchuensis* T. Itô. A: habit; B: bark; C: leafy branches; D: lower leaf surface. All photos taken in Shimo-koshikishima Island on 13 Oct. 2020.

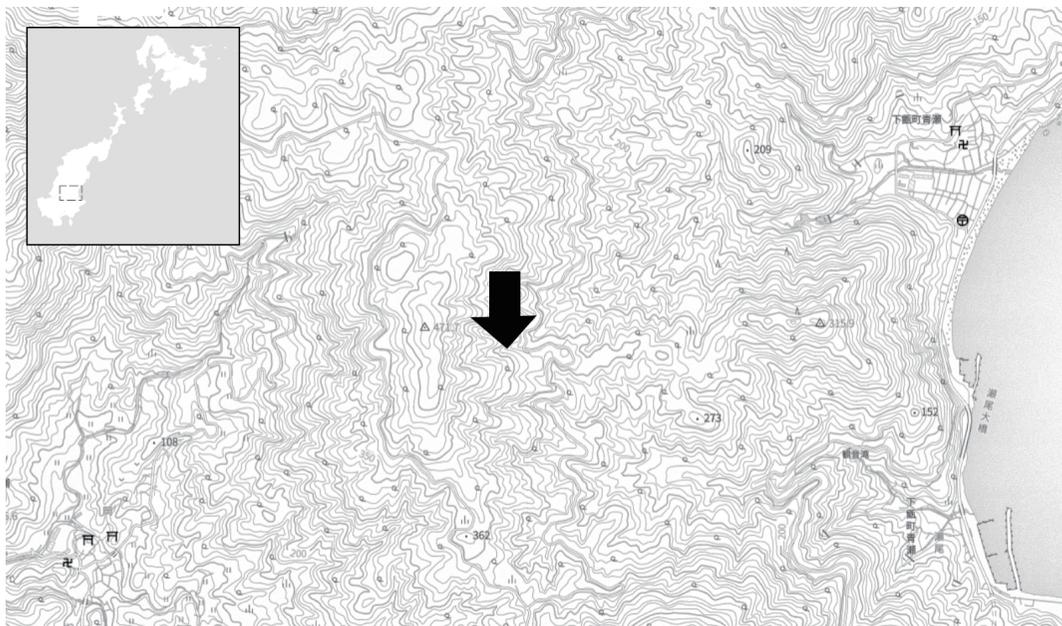


図2. 下甕島におけるリュウキュウマユミの生育地点 (矢印). この地図は国土地理院の電子地形図を使用したものである.

謝辞

本研究は鹿児島大学経営戦略経費(島嶼)の「奄美群島を中心とした島嶼グローバル教育研究拠点強化 及び国内外組織との連携推進」および環境省の「環境研究総合推進費(4-2001)」の援助を受けて実施した。

引用文献

初島住彦. 1975. 琉球植物誌(追加・訂正). 沖縄生物教育研究会, 那覇, 1002 pp.

初島住彦. 2004. 九州植物目録. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 343 pp.

鹿児島県. 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物—鹿児島県レッドデータブック2016—植物編. 鹿児島県環境技術協会, 鹿児島, 499 pp.

琉球の植物研究グループ. 2018–present. 「琉球の植物」データベース. 国立科学博物館. https://www.kahaku.go.jp/research/activities/project/hotspot_japan/ryukyus/db/ [accessed 31 Oct. 2020].

立石庸一. 2016. ニシギ科. Pp. 128–139. 大橋弘好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編)日本の野生植物3. 平凡社, 東京.